

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193100035		
法人名	株式会社 メディカルコーポレーション		
事業所名	グループホーム すみよしの憩 1階		
所在地	岐阜県可児市今渡字鳴子2348-2		
自己評価作成日	平成23年11月18日	評価結果市町村受理日	平成24年2月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2193100035&SCD=320&PCD=21
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成23年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「地域密着」の意識を強く持ち、「利用者・家族との関わり」・「職員との関わり」・「地域との関わり」の3つの関わりを大切に日々の運営に取り組んでいる。「利用者・家族との関わり」では毎月1回の便りや季節毎の行事、家族会など行い家族との絆を大切に持ち、「職員との関わり」ではゆったりと穏やかな毎日を過ごして頂けるように「寄り添う介護」を大切に、「地域との関わり」では地域行事への参加や回覧板での広報の掲載・地域ボランティアの参加等、地域との関わりを大切に取り組んでいる。この先「地域の中の施設」から「地域の中のホーム(家)」になり、利用者様が地域住民の一員として自然な形で暮らしていけるよう支援を続けていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

4月に移転した新築のホームの周辺は、新興住宅地と田園が広がっている。以前の土地での経験を活かし、一日も早く、新しい環境に馴染み、地域の一員になれるよう、運営推進会議には各種役員以外に、地域住民にも参加を呼び掛ける等、グループホームへの理解と協力を得る取り組みを行っている。一人ひとりの利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮するケアに活かすために、接遇委員会を設け、毎月1回、マナー等を学習している。法人から職員へ直接アンケートを実施し、ストレスの早期発見、治療につなげる等、職員が安心して働ける職場作りにも力を注いでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(1階)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、管理者・出勤職員全員でホーム理念・介護の心得・介護の三大理念の唱和を行い、周知共有を行っている。また、意見交換を日々行い、実現に向け取んでいる。	職員会議や学習会等で「利用者、家族との関わり」「職員との関わり」「地域との関わり」の理念を唱和し、意義を共有すると共に、月毎に、理念を実現するための具体的なテーマを決め、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会・子ども110番の家に参加し、定期的に地域ボランティアの訪問や、地域の夏祭りの際は子供達が立ち寄って頂いている。また利用者様もお祭りに参加したりと日常的に交流を行い、地域住民の方が、訪れ易い環境作りに努めている。資源回収への協力も行っている。	毎日の散歩コースに花作農家があり、眺めたり語り合うのが日課となっている。地域の夏まつりに招待され、住民の作品を購入してくる利用者もいる。ホームの行事に踊りのボランティアを招待し、共に踊りを楽しんでいる。	4月に移転し、地域との関わりが浅いため、新たな関係作り、協力体制作り等に積極的に取り組んでいるところであり、今後が期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や広報を通して、自治会や民生委員の方にホームの活動を理解して頂いたり、地域ボランティアの方達との交流を深め、認知症の理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様・近隣住民・民生委員・市職員が参加し、2か月に1回、ホームでの活動・行事・事故報告を行っている。また、家族会や消防訓練等、実際のホームでの活動に参加して頂き、参加メンバーに率直な意見を貰いサービスの向上に努めている。	2ヶ月に1回の運営推進会議は、家族会と併せて土曜日に開催している。行政や消防署員も参加し、防災訓練等も実施している。車椅子利用の外出支援について検討している。出席者からの意見等は、サービスの改善に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは会議以外の機会にも、ホームの実情とサービスについて伝えたり、ご家族様からの相談等で分からない事や、判断しかねる事例については、相談し意見や助言を頂いている。	市の担当者とは、電話や直接出向き、連絡を取り合っている。介護保険料や医療費の他地域との比較など、家族からの問い合わせに、情報の提供を依頼する等、気楽に相談できる関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎朝「介護の心得」の一つとして唱和を行い心得るようにしている。ホーム内に身体拘束防止委員会を設置し勉強会を行うことで職員全員が身体拘束について理解を深め「身体拘束ゼロ」に取り組んでいる。玄関や窓の施錠については防犯上夜間や外出時には行っている。	ホームに、身体拘束防止委員会を設置している。職員は、身体拘束についての知識と理解を、事例を通して学び、日常の何気ない言葉かけ等、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「介護の心得」として毎朝の唱和、ホーム内で虐待防止委員会の設置、コンプライアンス委員によるホーム内チェック・定期的な勉強会を行い職員全員で虐待防止に取り組んでいる。		

岐阜県 グループホームすみよしの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見制度を利用している方はいないが定期的な勉強会を行い権利擁護に関する内容の理解・活用例などを勉強している。相談があった場合などいつでも説明や助言ができるようにホームの支援体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書・重要事故説明書を十分に説明を行うと共に、質問等があった場合にはその都度理解・納得を得て同意して頂いている。また、契約内容の変更があった場合には、速やかにご家族様に再度、説明の機会を設け同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時、その都度意見を頂くと共に玄関先には意見箱を置きいつでも記入できるようにしている。担当者を設置し早急に対応できる体制作りや直接本社へ意見が出せるような体制作りも整えている。	家族の面会が多く、一緒に喫茶店に行った時の利用者の表情や会話等を、気楽に話してくれる。職員からは利用者の些細な体調の変化を家族に説明する等、対話の中から、家族の意見や要望を把握し、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議・ユニット会議・定期的な個人面談・普段のコミュニケーションの中から職員の意見を聞く場を多く設け、現場の意見を多く取り入れ、円滑に運営出来るように努めている。また、現場の意見を管理者会議で提案しサービス向上に努めている。	管理者やユニットのリーダーは、職員との個別面談、ケアにおける相談等を通し、職員一人ひとりを理解している。「利用者が寝る際の履物の並べ方」等、現場の職員の小さな気づきや提案にも耳を傾け、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各資格手当や人事考課制度を取り入れた賞与・昇給を取り入れ、能力に応じた給与体系を実施している。また、様々な講習・講演会・資格取得の為に情報提供及び参加を促している。ホームの年間目標としても掲げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員へのOJTの実施。ホーム内では委員会の設置・研修会など行っている。ホーム外では研修・講習会の参加を積極的に行い各自が能力向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内外のホームへの訪問や運営推進会議への参加など交流する機会を多く持ちネットワーク作りに努めている。またお互いに情報交換することによりサービスの見直し・改善・向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談時に本人との話し合いの時間を多く持ちゆくりと聞くことにより「本人の思い」を聞きとると共に親睦を深めることにより不安の軽減を図っている。また、ご家族様からの話を聞き、ご本人のニーズを十分に把握出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談・面談時に時間をかけて今までの経緯や介護での苦労話などを聞いて内容を共感すると共に今後の希望や要望などご家族様の意向を踏まえたサービスを提案することにより安心感・信頼感が生まれるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談時に利用者様本人・ご家族様の意向を聞き、納得ができるまで話し合い、適切なニーズをつかみ、それをもとにサービス内容を提案していく。また必要であれば訪問歯科や訪問理容、地域資源なども検討し活用するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は介護を自立支援の援助の一部と考え、利用者様には残存機能を活用してもらい、出来る範囲で家事手伝いなどの役割分担をしてもらうことにより互いに協力して暮らす環境作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の「便り」にて近況報告すると共に定期的に家族会など行事に参加していただきご家族様との接点を多く作り本人と家族との関係を途切れさせることなく一緒に支えていく関係作りを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	親しい友人に会いにいったり馴染みのある場所に行き本人にとって大切な時間が過ごせるように支援している。また面会時には気軽に来所してもらえるような声かけも行っている。	友人や知人に会いに行ったり、訪ねてもらえるように、職員がサポートし、馴染みの関係が途切れないう支援をしている。墓参りやいきつけの美容院等への外出は、家族と共に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じ屋根の下、利用者様同士の関係が温和にいくように職員が関係のかけ橋になり支援している。また本人の生活スタイルを尊重し、一人で過す時間も大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後は関係が途切れてしまいがちだがこれまで築いた信頼関係を大切に、要望や必要性があればいつでもフォローができる支援体制作りを努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人の意向に沿ったサービス・生活スタイルを提供するように努めている。意思確認困難な入居者様には本人の立場に立った考え方をするように心掛けている。	日常会話や行動を観察し、思いの把握に努めている。意思の表出が困難な人は、本人の立場になって考え、汲み取っている。個々の思いは、日々の生活スタイルや利用者の望むケアに活かしている。	新任および全職員が、認知症利用者とのコミュニケーション技量を高め、さらによりよい暮らしに繋がるように期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に利用者様本人とご家族様の双方から事前にアセスメントを行い生活歴や性格・趣向などを把握するようにしている。またそれ以降も定期的な再アセスメントの実施や来訪者や友人からの情報収集も随時行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録・業務日報による毎日の情報確認、また職員間の情報交換を密に行う事で随時職員が現在の状態把握が出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段より利用者様本人やご家族様から話しを聞き意向を反映させるように努めることは勿論の事、毎月のモニタリングや関係者によるカンファレンスも行い介護計画を作成している。	介護計画の作成担当者を中心に、職員全体で取り組んでいる。本人・家族の希望、介護相談員や協力医、かかりつけ医等の情報を取り入れ、一人ひとりの現状に合わせて介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの実施状況や本人の言葉や思いを記録に残しより具体的に職員間で情報共有できるようにしている。必要があればすぐに介護計画の見直し・変更を行い新たなサービス実施に取り組むように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状態変化やご家族様の状況やニーズの変化に対して、柔軟に対応できるように努力している。訪問歯科・マッサージなど外部サービスを取り入れたりと、時にはご家族様と協力しながら出来る限り希望に沿えるように努力している。		

岐阜県 グループホームすみよしの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的なボランティアの訪問や行事における地域ボランティアの活用、またアセスメントより利用者様一人ひとりの趣味や趣向を考慮し近くにある文化創造センターで行われる催しものなどにも出掛け有効利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、かかりつけ医からホーム提携医に変更の際は説明(月2回の往診・24時間オンコールなど)し同意を頂いた上で移行して頂いている。内科以外の馴染みの医療機関に受診される場合でも情報提供書などにより円滑な診察が受けられるようにサポート体制を整えている。	家族の希望により、ほとんどの利用者が月2回の往診がある協力医をかかりつけ医に変更している。内科以外の医療機関への受診は、家族が同行しているが、医師同士が情報を交換し、連携しながら適切な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師が常駐しており日常の健康管理も行っている。利用者様の身体に状態変化があった場合には速やかに連絡・相談を行い対処している。また24時間オンコールにも対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際には速やかに介護サマリーを作成し医療機関関係者と情報交換を行い対応している。また入院中の利用者様の状態などを担当看護師などに情報収集を行い早期退院に向けた受け入れ態勢を整えるように努めている。また普段より医療機関の相談員やケアマネージャーとの情報交換も行って関係づくりをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化における方針について説明しホームで「出来る事」「出来ない事」を説明し納得頂いたうえで同意をもらっている。アセスメント時にもご家族様から終末期の要望を聞いたり、ホームにおいても全職員で「看取り」について意見を徴収し話し合ったりしてホーム全体で「重度化や終末期」についての理解を深める努力している。	契約時、重度化に対しての、事業所の方針を説明し、同意を得ている。利用者の状態の変化に応じ家族、医師、職員が方針を一つにし支援している。事業所として勉強会を重ね、終末期への対応力を高める努力をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習や勉強会の開催などを行い急変時・事故発生時の対応など職員全員の技術・知識を高めるように努力している。発生内容に合わせた勉強も行っており、適切な早期対応ができるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎日、防火自主点検を行い、年3回の消防訓練の実施や定期的な勉強会を行い防災に対する職員の意識を高めるようにしている。保存食や飲料水の備蓄もしており、消防訓練の際には地域住民・市職員にも参加してもらい協力体制がとれるように努めている	チェック表に基づき毎日「防火自主点検」を実施している。年3回の訓練の中で1回は運営推進会議に合わせ、消防署、地域、家族と共に実施している。水や食糧品に加え、介護用品等の備蓄がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム独自にて待遇委員会およびコンプライアンス委員会を設置しており、毎月勉強会を開催してマナーの向上に努めている。また介助中は特に個人の自尊心やプライバシーに配慮することを心掛けている。契約時には個人情報に関する同意書を取り交わしており取扱いには十分に注意している。	ホームに待遇委員会が設置され、毎月マナーに関する学習会を実施している。排せつ介助時の言葉かけ等、利用者の人格を尊重し、プライバシーに配慮した対応ができるよう、事例に基づき学習している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	画一的な支援ではなく個人の趣向を把握し「自己決定」が出来るような声かけや援助に心がけている。利用者様の思いが表出した場合は記録に残し、意思表示の困難な利用者様に対しては普段の暮らしぶりから思いをくみ取れるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが利用者様個人のその日の状態に応じて柔軟に変化させて穏やかに過ごしていただけるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え(着衣の選択)は自己決定が出来るように職員が援助し行っている。男性利用者様に関しては毎朝髭剃りの支援を行なっている。可能な限り季節に即した服装が出来るように努力している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間は利用者様・職員皆でテーブルを囲い一緒に食事をしている。また食事準備・片付けは各利用者様独自の役割分担があり職員と共に共同作業を行ってもらっている。手伝いの「始まり」と「終わり」には感謝の言葉以外に必ず一言付け加えるようにしている。	栄養士がカロリー計算して献立を作成している。献立の内容は品目が多く、季節の野菜を豊富に取り入れて調理している。利用者は、出来ることを共に行い、職員は感謝の言葉をかけ、一緒に食事をしている。月毎にリクエストメニューの日があり、楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は記録に残しており随時確認できるようになっており毎日集計も行っており職員全員が確実に確認できるようになっている。食事メニューやカロリーなどの栄養バランスは管理栄養士によって決定されている。体調不良時の場合は主治医によって栄養補助ドリンクなどの支援も行われている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者様全員が口腔ケア出来るように職員が声かけ・介助を行っている。義歯装着の利用者様に対しては定期的に義歯洗浄剤による洗浄支援も行っている。希望があれば訪問歯科による口腔内清掃も行っている。		

岐阜県 グループホームすみよしの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は利用者様の排泄パターン・サインを把握して失敗を軽減するように努力している。誘導・介助する場合も利用者様の自尊心に配慮した対応を心掛けている。出来る事は自身で行っていたように自立支援の援助している。	排泄チェック表に基づき、個々の排せパターンに応じた誘導支援により、安心パンツから布パンツへ、使用パッド数の減少等がみられる。自立度の高い人は、自身の力で排泄できるように見守っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の栄養バランスと共に日々の運動や入浴を積極的に行ってもらえるように支援して自然な排泄が出来るように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日いつでも可能な体制をとっている。入浴の順番も各利用者様の状態を考慮して声をかけて誘うようにしている。入浴剤の使用や音楽の導入など趣向をこらして入浴を楽しんでもらえるように支援している。夜間は人員配置上、安全を考慮して入浴は行っていない。	週に3回、午後2時から3時ぐらいまでの時間に入浴出来るよう支援している。脱衣室を含め入浴スペースは広く清潔で、さりげなく置かれた観葉植物、音楽を流す等、ゆったりと入浴し、心身を癒す配慮がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝や休息などは自由に出来るようになっており、天気の良い日は布団を干したり気持ちよく眠れるような環境整備に心がけている。就寝前・就寝中は室温調整・照明調節を行い安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が各利用者様の服用している薬を把握できるように勉強会や夜勤時の個人勉強を行っている。また主治医と常に連絡がとれる体制を整えており症状の変化があれば報告いつでも対応できるようにしている。また薬剤師にも状況に応じて相談するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションや家事手伝いなどの役割参加に関しては個人の生活歴より職員が配慮して利用者様個人に適した役割が持てるように支援している。また天気の良い日には散歩や買い物など外出を行う事で気分転換が図れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全体レクリエーションでの外出は勿論、日々のコミュニケーションの中から利用者様個人の意向を把握し個人的支援として散歩・買い物・ドライブ・喫茶店など行っている。	毎日の散歩、野菜や花の水やり等が日課となっている。利用者の希望に応じ、買物や喫茶店への外出を支援している。法人のバスで、岩村にある同一法人のグループホームへ交流を兼ね、訪問している。	

岐阜県 グループホームすみよしの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症状を考慮して本人様・家族様に同意を得た上で個人の金銭管理を支援しており、外出や買い物の際には充実感・安心感が持てるようになるべく本人自身に支払ってもらうように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的に電話・手紙とも自由である。手紙を書かれる利用者様に関しては住所・宛名などの確認や出す際はポストまで本人と一緒に行き自分でポストに入れてもらい安心感や楽しみを味わってもらえるよう工夫している。また携帯電話を所持している利用者様に関しては充電管理・着信の有無などの支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下・リビングには季節感ある飾り付けを行い天気の良い日は窓を開け風通しをよくして季節を感じてもらえるようにしている。居間と食堂が一緒になっており対面キッチンになっているため作り手と会話をしながら食事を待つ楽しみも出来るようにしている。	木の香を感じる明るいリビングには、角の無い安定感のあるテーブルが設置され、読書好きの利用者のために、新聞、雑誌等様々な分野の本が用意されている。窓の外には田園が広がり、玄関や廊下には季節の飾り付けをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはテーブル席・ソファ席があり、玄関先にも長椅子、テラスにも4人がけのテーブルが用意されており、常に自分の居心地のよい場所で過ごせるような空間作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた家具の使用を基本として、個人個人によっては家族やペットの写真を飾ったり、植物を置いたりなど利用者様本人にとって安心して過ごせる居室作りの支援を行っている。	弾きなれた楽器や椅子などが持ち込まれ、若かりし頃の思い出の写真や家族の写真が目線に置いてある。居室で自由にテレビを見ることもでき、その人らしく安心して暮らせる居室環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	基本的に高齢者が安全に安心して過ごせるような設計になっている。トイレや浴室・居室など理解しやすいようにプレートを設置したり、会議の場や普段のコミュニケーションの中でリスクや改善点を話し合い快適に過ごしてもらえるように日々努力している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193100035		
法人名	株式会社 メディカルコーポレーション		
事業所名	グループホームすみよしの憩 2階		
所在地	岐阜県可児市今渡鳴子2348-2		
自己評価作成日	平成23年11月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票(2階)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、管理者・出勤職員全員でホーム理念・介護の心得・介護の三大理念の唱和を行い、周知共有を行っている。また、意見交換を日々行い、実現に向け取んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会・子ども110番の家に参加し、定期的に地域ボランティアの訪問や、地域の夏祭りの際は子供達が立ち寄って頂いている。また利用者様もお祭りに参加したりと日常的に交流を行い、地域住民の方が、訪れ易い環境作りに努めている。資源回収への協力も行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や広報を通して、自治会や民生委員の方にホームの活動を理解して頂いたり、地域ボランティアの方達との交流を深め、認知症の理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様・近隣住民・民生委員・市職員が参加し、2か月に1回、ホームでの活動・行事・事故報告を行っている。また、家族会や消防訓練等、実際のホームでの活動に参加して頂き、参加メンバーに率直な意見を貰いサービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは会議以外の機会にも、ホームの実情とサービスについて伝えたり、ご家族様からの相談等で分からない事や、判断しかねる事例については、相談し意見や助言を頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎朝「介護の心得」の一つとして唱和を行い心得るようにしている。ホーム内に身体拘束防止委員会を設置し勉強会を行うことで職員全員が身体拘束について理解を深め「身体拘束ゼロ」に取り組んでいる。玄関や窓の施錠については防犯上夜間や外出時には行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会・コンプライアンス委員会を設置し、定期的に勉強会を行い職員全員で虐待について学び・考え危険性を十分に認識し、職員による虐待防止に努めている。また、毎日「介護の心得」を唱和する事で更なる防止に努めている。		

岐阜県 グループホームすみよしの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見制度を利用している方はいないが定期的な勉強会を行い権利擁護に関する内容の理解・活用例などを勉強している。相談があった場合などにいつでも説明や助言ができるようにホームの支援体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書・重要事故説明書を十分に説明を行うと共に、質問等があった場合にはその都度理解・納得を得て同意して頂いている。また、契約内容の変更があった場合には、速やかにご家族様に再度、説明の機会を設け同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時、その都度意見を頂くと共に玄関先には意見箱を置きいつでも記入できるようにしている。担当者を設置し早急に対応できる体制作りや直接本社へ意見が出せるような体制作りも整えている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議・ユニット会議・定期的な個人面談・普段のコミュニケーションの中から職員の意見を聞く場を多く設け、現場の意見を多く取り入れ、円滑に運営出来るように努めている。また、現場の意見を管理者会議で提案しサービス向上に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各資格手当や人事考課制度を取り入れた賞与・昇給を取り入れ、能力に応じた給与体系を実施している。また、様々な講習・講演会・資格取得の為に情報提供及び参加を促している。ホームの年間目標としても掲げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員へのOJTの実施。ホーム内では委員会の設置・研修会など行っている。ホーム外では研修・講習会の参加を積極的に行い各自が能力向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内外のホームへの訪問や運営推進会議への参加など交流する機会を多く持ちネットワーク作りに努めている。またお互いに情報交換することによりサービスの見直し・改善・向上に役立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談時に本人との話し合いの時間を多く持ちゆっくりと聞くことにより「本人の思い」を聞きとると共に親睦を深めることにより不安の軽減を図っている。また、ご家族様からの話を聞き、ご本人のニーズを十分に把握出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様は勿論の事、ケアマネージャー・相談員の方との連絡を取り、不安解消や信頼関係の構築に努めている。また、サービス導入後も定期的にご家族様と話す機会を設け常に信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際には、相手の方が納得の出来るまで話し合いを行い、適切なニーズを掴み、より良いサービスが提供できるように他の関係機関に連絡をとる等、迅速な対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共に行う家族と考え「一方的にサービスを提供する」、「介護する一されている」だけではなく「人生の大先輩」という気持ちを忘れず、介護者もご利用者様より、色々な事を教わり支えられ関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時には、ご家族様とのコミュニケーションの時間を常に大事にし、良い関係を保てるように努力している。月に1度ホームからのお便りで、生活の様子をお知らせしたり、また体調変化時等はその都度ご家族様に状況を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と一緒に親しい友人に会いに行ったり、職員と一緒に馴染みのある場所に行ったりと本人のこれまで大切にしてきた関係が途切れないようにしている。また面会時にも気軽に来所してもらえるように職員が声かけをするようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様、一人ひとりの出来る事・出来ない事の把握を行い、共同で行う場を多く作り、ご利用者様が孤立せず楽しみながら暮らせるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了してもご本人・ご家族様の希望に応じて相談や支援に努めている。また、住み替えの場合はその先の関係者にご利用者様の状況をまとめた介護サマリーを提出し、今までの暮らしが継続できるようにつとめている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望や意向を毎日のコミュニケーションを通してご本人の立場にたって理解し、出来る限りご本人の希望に沿えるように努めている。また、把握が困難な場合などは、ご家族様からの意見等により、ご本人の視点に立ち、話し合いを行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント・介護経過記録表を参考に現在に至るまでの生活歴・家族構成・入所に至った経緯等の把握に努めている。また、定期的な再アセスメントを行い、職員全員で情報共有を行い、その人らしい生活ができるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日報・介護記録を出勤時に職員が各自確認を行い、情報共有を行っている。また、状況変化等もその都度情報交換を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の状態や変化を把握し定期的ユニット会議の場で話し合い、ご本人がより良く暮らすためにご家族様・関係者様の意見を反映し介護計画を作成している。また、状態変化時等にはその都度、話し合いを行い介護計画の見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化・気づき・ケアプランの実施状況を個別に記録に残し、毎日の申し送りや毎月のミーティングで情報を共有しケアに活かした。記録を反映し介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状態変化やご家族様の状況やニーズの変化に対して、柔軟に対応できるように努力している。訪問歯科・マッサージなど外部サービスを取り入れた。時にはご家族様と協力しながら出来る限り希望に沿えるように努力している。		

岐阜県 グループホームすみよしの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的な地域ボランティアの訪問やホームでの美容師による散髪を行っている。週に1回パン屋の訪問や交流行事(生け花)への参加を楽しみにしている。地域の色々な機関・催し物を把握し、利用する事で楽しむ事が出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、かかりつけ医からホームの提携医に変更の際は同意を得た上で、診察がスムーズに行えるよう情報提供書を依頼し、医師同士が情報交換を行っている。また、内科医以外は状況に応じてご家族様の協力のもと、馴染みの医療機関を受診して頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師がおり、日常の健康管理に努めている。また、ご利用者様の身体状況等、些細なことでも相談し、すぐに対応できるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際は、日常の生活の様子等、必要な情報を医療機関に提供し、医療機関の関係者との連絡を密に取っている。また、入院期間中も関係者からの情報や、本人様の状態の把握を行い、早期退院に向けて受け入れ態勢を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時また、段階的にご本人やご家族様の意思を踏まえた上で重度化した場合や終末期の在り方、現在のホームでの対応方針の説明を行い、必要に応じ主治医への相談も行っている。また、全体会議を通して職員全員が理解し共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応について定期的に勉強会を行っている。また、普通救命講習やAED講習を定期的に行い、職員全員で知識を高めよりの確に判断し、適切に早期対応が出来るように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	週1回の消防点検と災害対策委員会を設け定期的な勉強会・年3回の消防訓練を行い、避難誘導方法・消火器の取り扱い等の講習を行っている。消防訓練には市の職員・地域の方・ご家族様にも参加して頂き火災・災害が起こった時の協力体制を整えている。飲料水・食品の備蓄も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇委員会・コンプライアンス委員会を設置し、利用者様の個人情報・プライバシー・自尊心を尊重した介護・言葉かけを行うよう、定期的な勉強会を通して、学び実施している。また、契約時に個人情報保護に関する同意書を取り交わしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日のコミュニケーションを通して、信頼関係を築き自己決定や希望を表出しやすい環境作りに努めている。また、本人の思い等が表出した際には記録に残し、職員が共有し、利用者本位の生活ができる限り希望に応じれるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかな流れはあるが、ご利用者様の希望やペース今、何がしたいのかを考え把握し、その日の状態に応じて柔軟に変化させて穏やかに過ごしていただけるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人一人の個性・希望に応じ、その人らしい服装やお洒落が出来るように支援している。また、外出時女性には口紅をつけてお洒落を楽しんでいただき、男性は毎日の髭剃りの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、一緒の時間にテーブルを囲み食事をとっている。また、食事の準備・片付けは利用者様と一緒に行う事で、一人一人の役割作りを行い生きがいにつなげている。また、役割等を通し、本人の隠れている能力を見つけられる機会ともなっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の希望を取り入れつつ栄養士がバランスを考え献立を作っている。また、月に1回の給食会議の中で献立の内容の検討を行っている。一人一人の状態に合わせて食事形態や量を調整している。水分量は1日1ℓ以上の摂取を心がけ、飲みたい時にいつでも飲める環境を作っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は口腔ケアの重要性を理解し、毎食後の口腔ケア・就寝前の義歯・入れ歯洗浄を行い、口腔内の汚れや臭いが生じないよう清潔保持に努めている。また、希望があれば訪問歯科による口腔内清掃を行っている。		

岐阜県 グループホームすみよしの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員全員が、利用者様の排泄のサイン・排泄パターンを把握し、一人一人に合った、声掛けや時間誘導を行っている。また、毎月のフロアー会議で情報交換を行い、排泄の失敗・オムツの使用頻度を減らしトイレで気持ちよく排泄できるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為に、毎日の生活の中で、適切な運動・食物繊維を多く含む食品の摂取・多めの水分摂取を心がけている。それでも便秘気味の利用者様に関しては、主治医に相談し調整剤を処方してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の生活習慣・生活のリズムや、意思・希望を尊重し、毎日、いつでも入浴できる環境を作っている。また、入浴剤を使用し、入浴を楽しんでもらっている。但し、夜間は職員の数上安全性を考慮し行っていない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を配慮し、好きな時間に休息が出来るように環境を整えている。また、ご家族様の協力のもと、今まで使用してきたものや、季節に応じたものを用意して頂いたり、天気の良い日は布団を干し、安心して眠れる環境を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の内服薬の効能・副作用等の勉強を毎日行い、職員全員が把握できている。また、ご本人の状態や経過を観察し、主治医と相談し服薬調整を行っている。薬剤師にも状況に応じ相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人のこれまでの生活歴を把握し、潜在している記憶や出来る事を最大限に活かし、個人にあった役割作りや、趣味活動が継続して出来る環境作りを行っている。また、天気の良い日は買い物や喫茶店に行く機会を多く作り、楽しみが増えるように努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、散歩や買い物・月に1回喫茶店への外出を行い、全体レクリエーションでは季節に応じて様々な場所へ行楽等を行っている。		

岐阜県 グループホームすみよしの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご入居者様本人とご家族の希望で、お金の所持については対応している。ご入居様が必要としているもの・要望はその都度ご家族様に伝え相談し対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日頃から、自由に電話や手紙のやり取りが出来るようにしており、電話は本人・他入居者様へ配慮し居室で出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、季節に応じた飾りや、季節感を取り入れた作品を利用者様と一緒に作り展示する事により、季節感を感じている。また、テレビの音量・光・室内温度等も常に配慮し、居心地良く過ごせる環境を作っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはテーブル席・ソファ席や2階入り口・廊下などには2~3人座れる場所があり、一人になる時間や、気の合う方と過ごせる場所の工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人・お家族様と相談しながら、今まで使ってきたものや、趣味の作品等を置いたり、ご家族様との写真等を飾ったりし、ご本人が居心地良く、安心できる居室環境の工夫を行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	基本的に高齢者が安全に安心して過ごせるような設計になっている。トイレや浴室、居室など、理解しやすいようにプレートを設置したり、会議の場や普段のコミュニケーションの中でリスクや改善点を話し合い快適に過ごせるように努力している。		